



一般 質問

令和3年度 9月定例会



幹線道路の 安全確保を

安部 誠也 議員

Q 安心安全の 道路整備

7月豪雨による通行止めで、町全体が孤立した。通勤や通院で苦労があったと聞いている。国道54号などの道路整備を、近隣市町とともに国・県に要望すべきだ。

国交省は2019～2020年の道路施設点検結果を発表したが、赤名トンネル・晴雲トンネルの点検結果はどうか。トンネルの新設・改良の要望はどのように考えているか。

瑞穂・高野インターアクセスと大田・安芸高田道路建設の可能性は。

A 今年の重点要望で

町長 塚原隆昭

雲南地域や出雲地域の幹線道路改良整備促進期成同盟会に参加しており、町の幹線道路の強靱化を要望している。国交省の道路施設点検では両トンネルとも「早期措置段階」で、今年度



新設・改良が望まれる赤名トンネル

に剥落部対策工事が実施される。

費用対効果から改良は難しい状況だが、今後も関係機関、国会議員へ強く要望していく。

瑞穂・高野インターアクセス道路整備は、今年度の知事要望で重点要望する。

大田市と安芸高田市を結ぶ高規格道路網は本町を通過しないが、瑞穂・高野インターアクセスと交わり、新たな広域交流圏形成を期待する。

Q 感染から子どもを守るために

子どもは感染しにくく、人にもうつしにくいとされていたが、実態はそうではなかった。子どもへの感染防止対策は非常に重要と考える。

保育所や教育現場へウイルスを持ち込まないために、登園・登校時の検査が重要と思うが、対策されているのか。発生を前提とした対策はできているか。保育所や学校職員への定期的なPCR検査の実施を求める。



無症状者の発見と保護が感染対策の要と思う。感染が深刻になった場合（町内での発生が確認された場合など）、職員や児童生徒が抗原検査を自宅で行える体制が必要と考えるがどうか。陽性が確認された場合、濃厚接触をせねばならないと対応することが重要である。広めのPCR検査を行う検査として行うことを提案する。

コロナウイルスと感染の仕組みを、自身で考え行動する学びの保障が必要と考える。教職員についても同様。どう考えるか。

A 家庭より医療機関

町長 塚原隆昭

県や国から示された通知に基づいて対応することを確認しており、保育所長、小中学校校長会などで感染防止対策の徹底を指示している。

検査は国が配布する抗原検査キットを使う予定だが、まだ届いていない。

PCR検査も大事かもしれないが、まず医療機関へ行ってもらおう。

家庭で検査しなくても、感染が拡大することはないと考える。

A 学びには取り組む

教育長 大谷哲也

各家庭における検温、体調管理を指導している。発熱・体調不良の場合は登校中止ということだ。

学びについては、自分自身で感染防止に向けた行動がとれるよう学校現場でも取り組んで行く。

Q 加齢性難聴への 公的助成を

加齢により耳が遠くなる人は多いが、対応を個人任せにせず、社会的に取り組む必要がある。加齢性難聴が、認知症の重要な危険因子との認識があるか。

日常生活に支障をきたす中等度の難聴の人は町内に何人いると把握しているか。認知症予防をはじめとした介護予防のためにも、高齢者の生活を支援し社会参加を促進する補聴器購入助成を、中等度の難聴者に対して行う必要があると考えるがどうか。

A 助成しない

町長 塚原隆昭

町内での該当者は把握していない。

町単独での助成は考えていない。国・県での制度化がまず重要と考える。

Q 赤名診療所の 開設を

これまで赤名地区は、開業医の力で医療を支えてきたが、閉院後、住民の診療所開設を望む声は大きい。公設民営化など、何らかの形で診療所を開設できないか。

A 地域包括 医療・ケアで

町長 塚原隆昭

町の病院事業としては、診療所等の新たな開設はせず、飯南病院および来島診療所を中心とした医療を提供していく。

均一な医療サービス提供を目指し「在宅医療」など、より充実した地域包括医療・ケアを推進している。交通体系の工夫も続け、受診しやすい環境づくりに努める。

Q 赤名峠の復旧を 急ぐ

NHKラジオ第1で放送された「石丸謙二郎の山カフエ」で、赤名峠が紹介されたが、一般の豪雨で倒木や橋が流失している状況だ。

赤名峠は、町内有数の歴史的遺産で、速やかな復旧を求める声がある。町は行動すべきと考えるがどうか。

A 生活に直結する ところから

町長 塚原隆昭

このような形で赤名峠が紹介されたのも、銀山街道応援団による歴史的遺産の保全活動が継続して行われて来たからこそ。

被災状況は聞いているが、今は住民生活に直結する災害復旧を優先する。